

7/13(土)~8/31(土) サマーフェア開催中

ヤチシャジン

(キキョウ科)

明るい湿地に生える多年草。青紫色の花が満開です。希少種なのでお見逃しなく。環境省：絶滅危惧 IA 類 (CR)。

2019年7月20日

通巻第424号

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (6/15~7/24)

冬虫夏草と昆虫展

◇展示温室 (7/20~8/18)

世界の食虫植物展

ランタナ (クマツヅラ科)

中南米原産の常緑小高木。たくさんの花を咲かせています。開花期間が長い上、暑い夏にも強いので、花壇にもよく植えられています。天気の良い日にはよく蝶が訪花しています。カスケードには斑入品種を植えています。

ダシリリオン (キジカクシ科)

米国~メキシコの乾燥地帯原産。植物園では4年ぶり、5回目の開花になり、5mにもなる花穂を上げています。葉には丈夫な繊維があり、屋根やかご、ロープの原料になります。

オサ・プルクラ

(アカネ科)

株の大きさに不釣り合いなほどの大きな花を咲かせています。国内での開花は大変珍しく、夜間になると芳香を放ちます。平成26年京都府立植物園で国内初開花。本園の株は京都からの譲渡株です。

ソーセージノキ

(ノウゼンカズラ科)

アフリカ西部辺りに分布し、一属一種で、花は夜に咲きます。8月上旬になると、ソーセージのような実をつけます。受粉はコウモリが行います。

マンデビラ (キョウチクトウ科)

中央アメリカ~アルゼンチン原産のつる性の植物で、花を次々に咲かせるため、長期間楽しむことができます。

フサフジウツギ

(ゴマノハグサ科)

中国原産の植物で、園芸品種はブuddleアの名前で販売されています。夏に円錐状の花序を出して小さな花を長期間咲かせ、蝶がよく集まるためバタフライブッシュとも呼ばれます。

オミナエシ

(オミナエシ科)

秋の七草として知られていますが、実際の開花期は盛夏です。日当たりのいい草地に黄色の花を咲かせます。

トケイソウ (トケイソウ科)

三つに分裂した雌しべが時計の針に見えることからこの名があります。大温室の中にはクダモトケイソウ(パッションフルーツ)もあります。

セイヨウニンジンボク

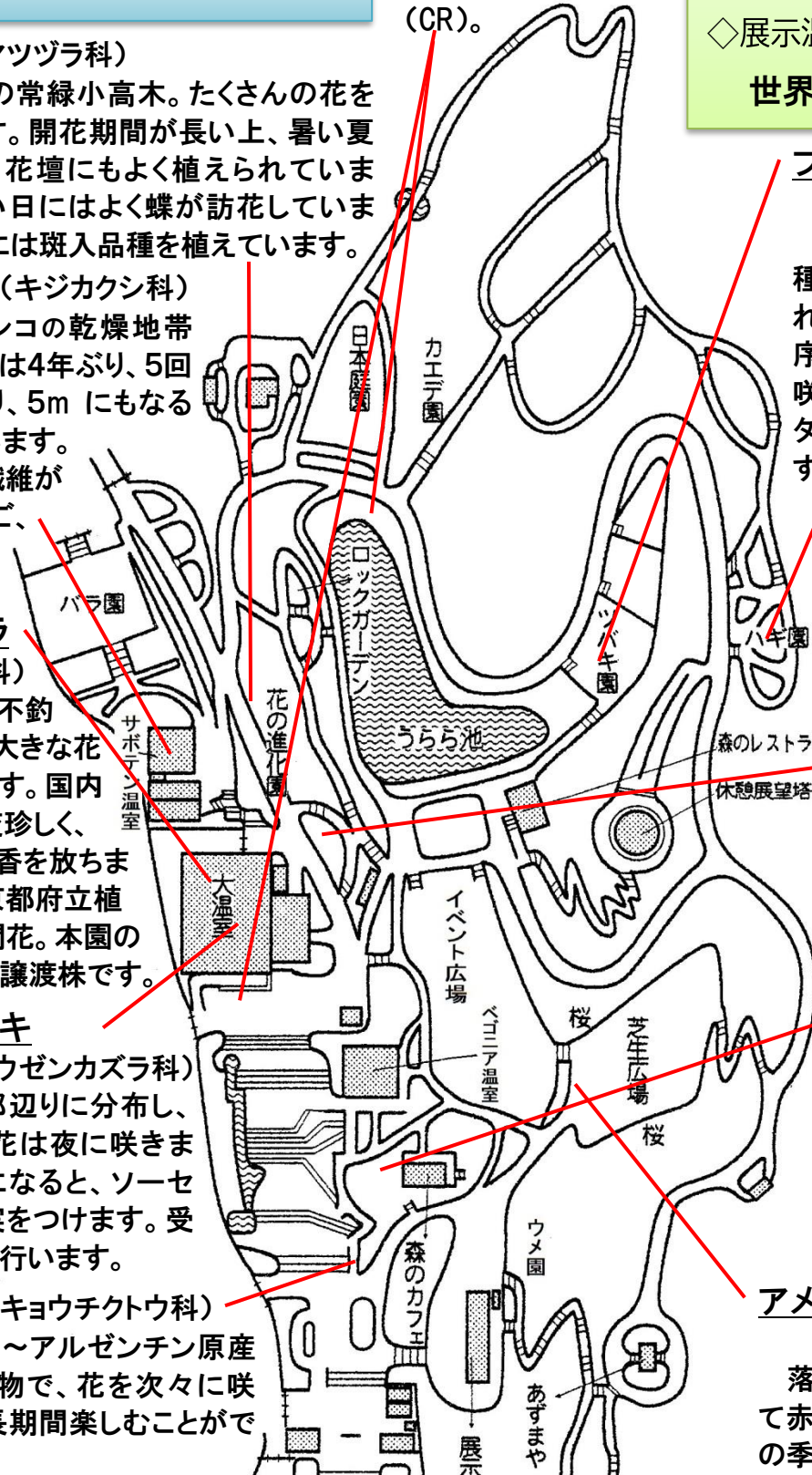
(シソ科)

7月頃からすみれ色の花をつけます。生育旺盛で育てやすい樹木です。開花期も長く、穂状の花序をつけ、芳香を持ちます。

アメリカノウゼンカズラ

(ノウゼンカズラ科)

落葉つる性木本。夏~秋にかけて赤色の大きな花を付けます。夏の季語にもなっています。



❖毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します❖
❖毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します❖
❖7月20、21日の土日に「カブトムシと学ぶ樹木」を行います。詳しくは園内掲示のポスターをご覧ください。❖